

---

# 2016年3月期 決算説明会

---

2016年5月11日  
宝ホールディングス株式会社



## 本日の内容

### I. 2016年3月期業績概況と2017年3月期業績予想

(発表者:取締役 木村 睦)

1. 2016年3月期 業績概況 <宝ホールディングス連結、宝酒造グループ>
2. 2017年3月期 業績予想 <宝ホールディングス連結、宝酒造グループ>
3. 2016年3月期 業績概況 および 2017年3月期業績予想 <宝ヘルスケア>

### II. 事業戦略

(発表者:代表取締役社長 柿本 敏男)

1. 中期経営計画レビュー <宝ホールディングス連結>
2. 中期経営計画レビュー <宝酒造グループ>
3. 2017年3月期の事業戦略 <宝酒造グループ>
4. 2017年3月期の事業戦略 <宝ヘルスケア>
5. 企業価値向上に向けた取り組み

<参考資料>宝HLD連結\_包括利益計算書、2017年3月期第2Q累計業績予想、為替前提 等



2

## 【2016年3月期業績概況と2017年3月期業績予想 発表者:取締役 木村 睦】

- 本日は、お忙しいところ、当社グループの2016年3月期の決算説明会にお集まりいただき、誠にありがとうございます。
- 2016年3月期の業績概況と2017年3月期の業績予想についてご説明します。

---

## 1. 2016年3月期 業績概況

---

3

- まず、宝ホールディングス連結の2016年3月期業績についてご説明します。

## 2016年3月期 宝ホールディングス(連結)実績

(百万円)

損益計算書 (売上高～営業利益)	16/03期 実績	前期比		11月計画比	
		増減	率(%)	増減	率(%)
宝酒造グループ	192,025	+1,936	+1.0	▲ 5,474	▲ 2.8
タカラバイオグループ	29,729	+3,759	+14.5	+729	+2.5
宝ヘルスケア	1,865	+213	+12.9	▲ 34	▲ 1.8
その他	1,744	▲ 35	▲ 2.0	+144	+9.0
売上高	225,364	+5,873	+2.7	▲ 4,635	▲ 2.0
売上原価	135,868	+1,477	+1.1	▲ 3,131	▲ 2.3
売上総利益	89,495	+4,396	+5.2	▲ 1,504	▲ 1.7
運送費	8,682	+366	+4.4	▲ 117	▲ 1.3
広告宣伝費	3,365	▲ 291	▲ 8.0	▲ 34	▲ 1.0
販売促進費	33,471	+653	+2.0	▲ 528	▲ 1.6
研究開発費	4,608	+854	+22.8	▲ 291	▲ 5.9
管理費、その他	27,686	+2,229	+8.8	▲ 913	▲ 3.2
販売費及び一般管理費	77,815	+3,811	+5.2	▲ 1,884	▲ 2.4
宝酒造グループ	8,410	+569	+7.3	▲ 89	▲ 1.1
タカラバイオグループ	2,667	+364	+15.8	+317	+13.5
宝ヘルスケア	64	+26	+68.7	+4	+7.5
その他	538	▲ 375	▲ 41.1	+148	+38.2
営業利益	11,680	+584	+5.3	+380	+3.4



4

- 連結損益計算書の売上高から営業利益までの実績について説明します。

### <前期比>

- 連結売上高は前期比58億7,300万円増収の2,253億6,400万円と、過去最高となりました。
- 売上総利益は、原価率が前期比で0.9ポイント低下したことにより、前期比43億9,600万円増益の894億9,500万円となりました。
- 販売費及び一般管理費では、販売促進費や研究開発費、管理費その他に含まれる人件費などが増加しましたが、営業利益は、前期比5億8,400万円増益の116億8,000万円となりました。

### <11月時点計画比>

- 宝酒造グループの売上高は計画を下回り、連結売上高は計画比46億3,500万円の計画未達となりました。
- しかしながら、原価率の改善や費用の抑制に努めた結果、営業利益は計画を3億8,000万円上回りました。

2016年3月期 宝ホールディングス(連結)実績

(百万円)

損益計算書 (営業利益～経常利益)	16/03期 実績	前期比		11月計画比	
		増減	率(%)	増減	率(%)
営業利益	11,680	+584	+5.3	+380	+3.4
受取利息	301	+35	+13.2		
受取配当金	446	+21	+4.9		
受取利息・配当金	747	+56	+8.1	+47	+6.8
持分法投資利益	334	+167	+100.9		
その他	748	+128	+20.7		
その他営業外収益	1,082	+296	+37.6	+382	+54.7
営業外収益	1,830	+352	+23.8	+430	+30.7
支払利息	185	+1	+1.0		
社債利息	261	▲24	▲8.7		
支払利息	447	▲23	▲4.9	▲52	▲10.5
為替差損	50	▲9	▲16.0		
その他	172	▲42	▲19.9		
その他営業外費用	223	▲52	▲19.1	+23	+11.8
営業外費用	671	▲75	▲10.1	▲28	▲4.1
経常利益	12,840	+1,012	+8.6	+840	+7.0

- 営業外損益では、持分法投資利益の増加や、その他に含まれる補助金収入の増加、営業外費用の減少により収支が改善し、連結経常利益は、前期比では10億1,200万円、計画比では8億4,000万円上回る128億4,000万円と、過去最高となりました。

## 2016年3月期 宝ホールディングス(連結)実績

(百万円)

損益計算書 (経常利益～当期純利益)	16/03期 実績	前期比		11月計画比	
		増減	率(%)	増減	率(%)
経常利益	12,840	+1,012	+8.6	+840	+7.0
投資有価証券売却益	273	+23	+9.5		
その他	79	+14	+21.9		
特別利益	353	+38	+12.1	▲46	▲11.7
固定資産除売却損	311	+10	+3.6		
その他	332	▲55	▲14.2		
特別損失	644	▲44	▲6.4	▲55	▲7.9
税金等調整前当期純利益	12,548	+1,095	+9.6	+848	+7.3
法人税等	4,778	▲309	▲6.1	+478	+11.1
非支配株主に帰属する 当期純利益	713	+54	+8.3	▲286	▲28.6
親会社株主に帰属する 当期純利益	7,055	+1,349	+23.6	+655	+10.2

- 特別利益、特別損失には前期比で大きな増減はなく、親会社株主に帰属する当期純利益は、前期比では13億4,900万円、計画比では6億5,500万円上回る70億5,500万円となりました。

## 2016年3月期 宝ホールディングス(連結)実績

(百万円)

貸借対照表 (資産の部)	15/03期末	16/03期末	増減	貸借対照表 (負債・資本の部)	15/03期末	16/03期末	増減
流動資産	160,653	159,073	▲ 1,579	流動負債	54,877	47,648	▲ 7,229
現金及び預金	41,296	38,386	▲ 2,909	支払手形及び買掛金	15,680	15,201	▲ 479
受取手形及び売掛金	54,617	53,602	▲ 1,015	借入金・社債	10,292	4,994	▲ 5,297
有価証券	27,022	28,238	▲ 1,215	その他	28,904	27,452	▲ 1,452
たな卸資産	32,800	34,218	▲ 1,417	固定負債	51,156	49,456	▲ 1,700
その他	4,915	4,627	▲ 287	借入金・社債	30,334	30,255	▲ 0
固定資産	103,785	94,179	▲ 9,605	その他	20,821	19,201	▲ 1,620
有形固定資産	53,085	53,065	▲ 0	負債合計	106,034	97,104	▲ 8,929
無形固定資産	12,358	11,010	▲ 1,347	株主資本合計	115,132	118,830	▲ 3,698
のれん	8,071	6,975	▲ 1,096	資本金・資本剰余金	16,422	15,105	▲ 1,316
その他	4,286	4,035	▲ 251	利益剰余金	108,647	113,663	▲ 5,016
投資その他資産	38,342	30,103	▲ 8,238	自己株式	▲ 9,937	▲ 9,938	▲ 1
投資有価証券	32,900	24,747	▲ 8,153	その他包括利益累計額	16,791	11,555	▲ 5,235
その他	5,441	5,356	▲ 0	非支配株主持分	26,481	25,762	▲ 718
資産合計	264,438	253,253	▲ 11,185	純資産合計	158,404	156,148	▲ 2,255



7

- 続いて連結貸借対照表について説明します。
- 資産合計は前期末に比べ111億8,500万円減少しました。
- 投資有価証券の減少が81億円と大きいですが、このうち50億円は、保有債券の償還期限が1年以内になり、流動資産に振替えたものであり、そのほかに保有株式の時価が36億円下落しました。
- 負債合計は前期末に比べ89億2,900万円減少しました。
- 当期に50億円の普通社債の償還がありました。
- また、資本金・資本剰余金が13億1,600万円減少していますが、これはフランスの日本食材卸会社フーデックス社の株式の残り20%を取得し、完全子会社化したことに伴い、資本剰余金が減少したものです。

## 2016年3月期 宝ホールディングス(連結)実績

(百万円)

キャッシュフロー計算書	15/03期 実績	16/03期 実績	増減
営業キャッシュ・フロー	9,545	10,373	828
税金等調整前純利益	11,453	12,548	1,095
減価償却費等	5,425	6,000	574
運転資本の増減	▲ 940	▲ 3,229	▲ 2,289
法人税等の支払額	▲ 7,362	▲ 4,664	2,698
その他	969	▲ 281	▲ 1,250
投資キャッシュ・フロー	▲ 10,253	▲ 10,864	▲ 610
有形・無形固定資産の取得	▲ 8,457	▲ 5,743	2,714
その他	▲ 1,796	▲ 5,121	▲ 3,325
フリー・キャッシュフロー	▲ 708	▲ 490	217
財務キャッシュ・フロー	6,819	▲ 9,482	▲ 16,301
有利子負債の増減	9,323	▲ 5,097	▲ 14,421
配当金の支払額	▲ 2,214	▲ 2,014	200
子会社の取得	—	▲ 2,022	▲ 2,022
その他	▲ 290	▲ 348	▲ 0
現金及び現金同等物為替換算差額	2,030	▲ 240	▲ 2,270
現金及び現金同等物増減	8,140	▲ 10,212	▲ 18,353
現金及び現金同等物期首残高	34,608	42,749	8,140
現金及び現金同等物期末残高	42,749	32,536	▲ 10,212



8

- 続いてキャッシュフロー計算書について説明します。
- 当期の営業キャッシュフローは103億7,300万円で、前期比で8億2,800万円増加しました。
- 投資キャッシュフローは108億6,400万円の支出でした。
- 有形・無形固定資産の取得は57億4,300万円で、タカラバイオグループの新本社社屋の建設費用などが含まれます。
- 財務キャッシュフローは94億8,200万円で、配当による支出が20億1,400万円あり、先ほどバランスシートの説明で触れました、社債の償還50億円やフーデックス社の株式の追加取得20億円などが主な支出です。

## 2016年3月期 宝酒造グループ実績

	16/03期 実績	前期比		11月計画比	
		増減	率(%)	増減	率(%)
焼酎	59,376	▲ 4,207	▲ 6.6	▲ 2,123	▲ 3.5
清酒	24,736	▲ 183	▲ 0.7	▲ 2,563	▲ 9.4
ソフトアルコール飲料	27,815	+1,918	+7.4	▲ 384	▲ 1.4
その他酒類	14,170	+678	+5.0	▲ 329	▲ 2.3
本みりん	15,104	+534	+3.7	▲ 295	▲ 1.9
その他調味料	9,314	+399	+4.5	+14	+0.2
原料用アルコール等	7,197	▲ 239	▲ 3.2	▲ 102	▲ 1.4
海外日本食材卸	20,668	+3,029	+17.2	+368	+1.8
その他	13,641	+6	+0.0	▲ 58	▲ 0.4
売上高	192,025	+1,936	+1.0	▲ 5,474	▲ 2.8
売上原価	120,886	+195	+0.2	▲ 4,113	▲ 3.3
売上総利益	71,138	+1,740	+2.5	▲ 1,361	▲ 1.9
運送費	7,924	+336	+4.4	▲ 75	▲ 0.9
広告宣伝費	2,824	▲ 299	▲ 9.6	▲ 75	▲ 2.6
販売促進費	32,405	+586	+1.8	▲ 594	▲ 1.8
研究開発費	329	▲ 10	▲ 3.2	▲ 70	▲ 17.7
管理費、その他	19,244	+558	+3.0	▲ 455	▲ 2.3
販売費及び一般管理費	62,728	+1,171	+1.9	▲ 1,271	▲ 2.0
営業利益	8,410	+569	+7.3	▲ 89	▲ 1.1

Takara

9

- 次に宝酒造グループの業績概況について説明します。

### <前期比>

- 売上高は19億3,600万円増収の1,920億2,500万円となりました。
- カテゴリー別では、焼酎の減収をソフトアルコール飲料や海外日本食材卸などの増収で補う格好になりました。
- 売上原価では、輸入原燃料が円安の影響を受けましたが、原材料コスト全体ではコストダウンとなり、売上高原価率が0.5ポイント改善し、売上総利益は前期比17億4,000万円の増益となりました。
- 販売費及び一般管理費では、運送費や販売促進費、管理費その他に含まれる海外子会社の人件費などが増加しましたが、営業利益は前期比5億6,900万円増益の84億1,000万円となりました。

### <11月時点計画比>

- 売上高は、焼酎、清酒、ソフトアルコール飲料などが計画を下回り、全体では54億7,400万円の未達となりました。
- 売上高原価率は計画よりも改善しましたが、売上総利益は13億6,100万円計画を下回りました。
- 販売費及び一般管理費の抑制に努めた結果、営業利益は計画比では8,900万円の未達にとどまりました。

## 2016年3月期 宝酒造グループ実績

(百万円)

宝酒造グループ 営業利益増減要因	対前期 増減	増減内容
宝酒造(単体)の 売上総利益の増減	+286	数量差▲879、単価差+1,165 (うち、売上原価のコストダウン+1,037) <主な内訳> 焼酎▲1,483(数量差▲1,449、単価差▲33) 清酒▲228(数量差▲286、単価差+58) ソフトアルコール飲料+796(数量差+760、単価差+35) 本みりん+289(数量差+219、単価差+69)
宝酒造(単体)の 販売費及び一般管理費の増減	▲635	<主な内訳> 運送費の増加▲164、広告宣伝費の減少+298、 販売促進費の増加▲743
宝酒造(単体)営業利益の増減	▲349	
宝酒造グループ子会社の 営業利益の増減	+919	海外日本食材卸会社+90 ※のれん等償却後 (フーデックス+81、コミンポート+108、タザキ▲99) その他の海外子会社+410 国内子会社+428 連結消去等▲10
宝酒造グループ 営業利益の増減	+569	

※利益の増加要因を「+」、減少要因を「▲」で表示



10

- 宝酒造グループの営業利益増減要因(前期比)について説明します。
- 宝酒造単体の営業利益が前期比で3億4,900万円減益になりましたが、海外日本食材卸会社やその他の国内外の子会社の営業利益の増加により、営業利益は前期比5億6,900万円増益となりました。

2016年3月期 宝酒造グループ実績

(百万円)

宝酒造グループ 営業利益増減要因	対11月計画 増減	増減内容
宝酒造(単体)の 売上総利益の増減	▲ 1,745	数量差▲983、単価差▲761 (うち、売上原価のコストダウン+268)
宝酒造(単体)の 販売費及び一般管理費の増減	1,191	<主な内訳> 運送費の減少+86、販売促進費の減少+349、 管理費その他の減少+627
宝酒造(単体)営業利益の増減	▲ 553	
宝酒造グループ子会社の 営業利益の増減	+463	海外日本食材卸会社+34 ※のれん等償却後 (フーデックス▲29、コミンポート+59、タザキ+4) その他の海外子会社+88 国内子会社+42 連結消去等+297
宝酒造グループ営業利益の 増減金額	▲ 89	

※利益の増加要因を「+」、減少要因を「▲」で表示



- 宝酒造グループの営業利益増減要因(11月時点計画比)について説明します。
- 宝酒造単体の営業利益が計画比で5億5,300万円未達となりましたが、海外日本食材卸会社やその他の国内外の子会社の営業利益の増加により、営業利益は計画比で8,900万円の未達にとどまりました。

---

## 2. 2017年3月期 業績予想

---

12

- 次に、宝ホールディングス連結の2017年3月期業績予想についてご説明します。

## 2017年3月期 宝ホールディングス(連結)業績予想

(百万円)

損益計算書 (売上高～営業利益)	17/03期 通期予想	前期比	
		増減	率(%)
宝酒造グループ	197,000	+4,974	+2.6
タカラバイオグループ	31,000	+1,270	+4.3
宝ヘルスケア	2,000	+134	+7.2
その他	2,000	+255	+14.7
売上高	232,000	+6,635	+2.9
売上原価	138,500	+2,631	+1.9
売上総利益	93,500	+4,004	+4.5
運送費	9,100	+417	+4.8
広告宣伝費	3,300	▲65	▲1.9
販売促進費	35,000	+1,528	+4.6
研究開発費	5,000	+391	+8.5
管理費、その他	29,100	+1,413	+5.1
販売費及び一般管理費	81,500	+3,684	+4.7
宝酒造グループ	8,700	+289	+3.4
タカラバイオグループ	2,700	+32	+1.2
宝ヘルスケア	110	+45	+70.5
その他	489	▲48	▲9.1
営業利益	12,000	+319	+2.7



13

- 連結売上高は前期比66億3,500万円増収の2,320億円、営業利益は前期比3億1,900万円増益の120億円を計画しています。
- 宝酒造グループ、タカラバイオグループ、宝ヘルスケアのいずれもが増収増益となる計画であり、中期経営計画最終年度の目標達成を目指します。

## 2017年3月期 宝ホールディングス(連結)業績予想

(百万円)

損益計算書 (営業利益～当期純利益)	17/03期 通期予想	前期比	
		増減	率(%)
営業利益	12,000	+319	+2.7
受取利息・配当金	600	▲147	▲19.7
その他営業外収益	1,000	▲82	▲7.6
営業外収益	1,600	▲230	▲12.6
支払利息	500	+52	+11.7
その他営業外費用	250	+26	+11.8
営業外費用	750	+78	+11.7
経常利益	12,850	+9	+0.1
特別利益	150	▲203	▲57.5
特別損失	400	▲244	▲38.0
税金等調整前当期純利益	12,600	+51	+0.4
法人税等	4,850	+71	+1.5
非支配株主に帰属する 当期純利益	670	▲43	▲6.1
親会社株主に帰属する 当期純利益	7,080	+24	+0.3

- 経常利益は128億5,000万円、親会社株主に帰属する当期純利益は70億8,000万円を計画しています。

## 2017年3月期 宝ホールディングス(連結)業績予想

### <中期経営計画の財務方針>

健全な財務体質を維持しながら、資本効率を意識し、利益成長のための重点戦略への積極的な投資と、適切な株主還元を実施する

	14/03 実績	15/03 実績	16/03 実績	17/03 予想
連結営業利益	9,490	11,096	11,680	12,000
1株あたり配当金(円)	11.0 (うち特別配2円)	10.0	12.0 (うち記念配1円)	12.0
配当総額	2,213	2,012	2,414	2,414
みなし配当性向*	37.6%	28.3%	30.9%	29.2%
自己株式取得	1,521	-	-	-
ROE	9.3%	4.5%	5.4%	5.4%

### <\*みなし配当性向>

$$\frac{\text{配当総額}}{\text{連結営業利益} \times (1 - \text{法定実効税率})} \approx 30\%$$



- 株主還元の状況について説明します。
- 当社は中期経営計画の中でご覧のような財務方針を公表しています。
- 配当方針としては、税引き後の連結営業利益をベースとしたみなし配当性向30%を目安に配当することとしています。
- 2016年3月期につきましては期初の配当予想11円に加え、当社創立90周年の記念配当1円とを合わせ12円の配当を実施します。
- 2017年3月期の配当予想も12円としており、みなし配当性向も30%程度となる予定です。
- 今期の計画に基づくROEの試算は前期と同水準の5.4%程度の見込みです。

## 2017年3月期 宝酒造グループ 業績予想

(百万円)

	17/03期 通期予想	前期比	
		増減	率(%)
焼酎	56,300	▲ 3,076	▲ 5.2
清酒	26,800	+2,063	+8.3
ソフトアルコール飲料	30,800	+2,984	+10.7
その他酒類	14,400	+229	+1.6
本みりん	16,400	+1,295	+8.6
その他調味料	9,800	+485	+5.2
原料用アルコール等	6,800	▲ 397	▲ 5.5
海外日本食材卸	22,300	+1,631	+7.9
その他	13,400	▲ 241	▲ 1.8
売上高	197,000	+4,974	+2.6
売上原価	122,900	+2,013	+1.7
売上総利益	74,100	+2,961	+4.2
運送費	8,300	+375	+4.7
広告宣伝費	2,700	▲ 124	▲ 4.4
販売促進費	33,900	+1,494	+4.6
研究開発費	400	+70	+21.6
管理費、その他	20,100	+855	+4.4
販売費及び一般管理費	65,400	+2,671	+4.3
営業利益	8,700	+289	+3.4

為替レート

(単位:円)	16/03期 (15年1月-12月)	17/03期 (16年1月-12月)
	実績	予想
ドル	121.11	119.00
ポンド	185.20	182.00
ユーロ	134.31	132.00
元	19.23	18.70
シカゴ・ドル	88.25	85.00



16

- 次に、宝酒造グループの2017年3月期業績予想についてご説明します。
- 売上高については、焼酎が減収の計画で、清酒やソフトアルコール飲料の売上を伸ばす計画としています。
- 海外日本食材卸は、為替レートを円高に設定していますが、増収となる計画です。
- 売上高は前期比49億7,400万円増収の1,970億円、営業利益は前期比2億8,900万円増益の87億円の計画で、宝酒造グループとして過去最高を目指します。

## 2017年3月期 宝酒造グループ 業績予想

(百万円)

宝酒造グループ 営業利益増減要因	対前期 増減	増減内容
宝酒造(単体)の 売上総利益の増減	+2,584	数量差+1,672、単価差+911 (うち、売上原価のコストダウン+150) <主な内訳> 焼酎▲1,089(数量差▲1,338、単価差+249) 清酒+905(数量差+890、単価差+14) ソフトアルコール飲料+1,820(数量差+1,277、単価差543) 本みりん+715(数量差+662、単価差+53)
宝酒造(単体)の 販売費及び一般管理費の増減	▲2,198	<主な内訳> 運送費の増加▲323、販売促進費の増加▲1,158、 管理費その他の増加▲719
宝酒造(単体)営業利益の増減	+385	
宝酒造グループ子会社の 営業利益の増減	▲95	海外日本食材卸会社+15 ※のれん等償却後 (フーデックス+68、コミンポート+25、タザキ▲79) その他の海外子会社+65 国内子会社▲7 連結消去等▲168
宝酒造グループ 営業利益の増減	+289	

※利益の増加要因を「+」、減少要因を「▲」で表示



17

- 宝酒造グループの営業利益増減要因(前期比)について説明します。
- 宝酒造単体の営業利益が前期比で3億8,500万円増益となる計画です。
- 子会社では、タザキフーズの社屋移転に伴う一時費用等で若干減益となり、宝酒造グループ全体の営業利益は、前期比で2億8,900万円の増益となる計画です。

---

### 3. 2016年3月期 業績概況および 2017年3月期業績予想

---

宝ヘルスケア

18

- 最後に宝ヘルスケアについて、2016年3月期の業績概況と2017年3月期の業績予想を合わせてご説明します。

宝ヘルスケア 2016年3月期実績 および 2017年3月期 業績予想

(単位:百万円)	16/03期	前期比		11月計画比	
	実績	増減	率(%)	増減	率(%)
売上高	1,865	+213	+12.9	▲34	▲1.8
営業利益	64	+26	+68.7	+4	+7.5

(単位:百万円)	17/03期	前期比	
	通期予想	増減	率(%)
売上高	2,000	+134	+7.2
営業利益	110	+45	+70.5

➤ 2016年3月期実績

- ・ガゴメ昆布「フコイダン」シリーズ売上高 : 前期比 +13.7% 11月計画比 ▲4.9%
- ・ボタンボウフウ「イソサミジン」売上高 : 前期比 +53.1% 11月計画比 ▲13.3%
- ・化粧品等のOEM受託製品が大幅増

➤ 2017年3月期業績予想

- ・「フコイダン」「イソサミジン」を中心に、エビデンスデータを重視した研究広告を行い、通販売上高の拡大を図る

- 宝ヘルスケアの売上高は18億6,500万円で、前期比2億1,300万円の増収となりました。
- 11月時点の計画に対しては3,400万円の未達となりました。
- 営業利益は、6,400万円と、前期比、計画比ともに増益を確保しました。
- 2017年3月期通期は、売上高は20億円、営業利益は1億1,000万円の計画です。

---

## 1. 中期経営計画レビュー

---

宝ホールディングス連結

20

**【事業戦略 発表者:代表取締役社長 柿本 敏男】**

- 今期は、2014年度からスタートした「宝グループ中期経営計画2016」の最終年度となりますので、その目標達成に向けた見通しからお話しさせていただきます。

## 宝グループ中期経営計画2016\_概要

<b>基本方針</b>	「宝グループ・ビジョン2020」の実現に向けて、国内では収益力の向上、海外では事業の拡大・伸長に取り組むとともに、バイオ事業の成長加速により、環境変化に強いバランスのとれた事業構造に変革していく		
<b>定量目標</b>	2017年3月期 宝グループ連結	売上高 2,300億円以上	営業利益 120億円以上 海外売上高比率 16%以上
<b>事業戦略</b>	宝酒造グループ	技術で差別化された商品の開発・育成により、国内事業の収益力を向上させるとともに、海外日本食材卸網を積極的に拡大し、海外事業を大きく伸長させる	
	タカラバイオグループ	再生・細胞医療分野へ戦略的な投資を行い、バイオ事業の成長を加速させる	
	宝ヘルスケア	ダイレクトマーケティングを通じて、健康食品事業の成長を加速させる	
<b>重点戦略</b>	「澁」を中心とした清酒売上高の拡大	バイオ医薬品の製造開発支援サービス (CDMO事業) 拡大	
	欧米をはじめとする 世界での日本食材卸網構築	遺伝子治療・細胞医療における 臨床開発の推進	



21

### 「宝グループ中期経営計画2016」

#### <基本方針>

「宝グループ・ビジョン2020」の実現に向けて、国内では収益力の向上、海外では事業の拡大、伸長に取り組むとともに、バイオ事業の成長加速により、環境変化に強いバランスのとれた事業構造に変革していく

#### <定量目標(2017年3月期 宝グループ連結)>

売上高2,300億円以上  
営業利益120億円以上  
海外売上高比率16%以上

## 宝グループ中期経営計画2016\_2017年3月期の見通し

### ◆売上高 (億円)

(億円)

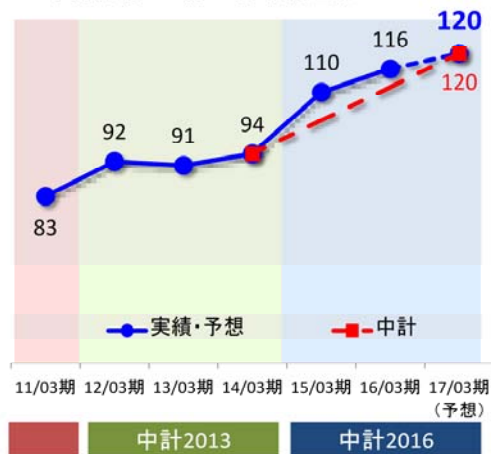
> 中計目標 2,300億円を今期達成



### ◆営業利益 (億円)

(億円)

> 中計目標 120億円を今期達成



22

• 定量目標に対する今期(2017年3月期)の見通しについて、順に見てまいります。

• このグラフは、2011年3月期を起点に今期までの推移を示したものです。

(青:実績および今期予想/赤:中計目標値)

<売上高(左グラフ)>

• 今期予想を2,320億円としており、中計目標である2,300億円を達成する計画です。

<営業利益(右グラフ)>

• 今期予想を120億円としており、これも中計目標を達成する計画です。

• 当期までは売上高・営業利益ともに赤の目標ラインを上回って順調に推移しています。

• 今期も、為替の動向など不確かな要素もありますが、目標値の達成を目指して事業を推進してまいります。

## 宝グループ中期経営計画2016\_ 2017年3月期の見通し

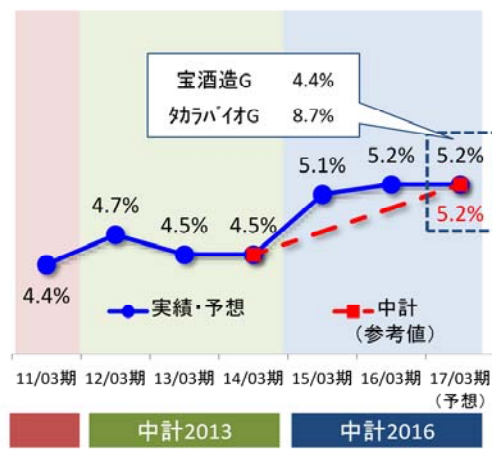
### ◆海外売上高比率

>初年度に中計目標値を達成し、さらに伸長



### (参考)営業利益率

>前中計最終年度に比べ改善の兆候



23

### <海外売上高比率(左グラフ)>

- 本中計初年度に既に中計目標である16%を上回りましたが、その後も伸長し、今期は 21.4%となる見通しです。  
(グループ別:宝酒造グループ16.2%、タカラバイオグループ56.8%)

### <営業利益率(右グラフ)>

- 中計の目標には掲げておりませんが、参考として記載しています。
- 今期の計画値は5.2%と、まだ十分な水準とは言えないながらも前中計最終年度の4.5%に比べ改善してきています。  
(グループ別:宝酒造グループ4.4%、タカラバイオグループ8.7%)
- 宝酒造グループの利益率を改善していくことで、グループ全体の営業利益率のさらなる向上を目指したいと思います。
- 本中計がスタートして2年間、事業は概ね計画通りに推進できていると考えており、定量目標についても計画を上回る水準でこれまで来ています。
- ただし、本中計のテーマである「バランスのとれた事業構造に変革する」までには至っていません。
- 今期は、定量目標の達成とともに、バランスのとれた事業構造への変革を完成させることを目指して取り組んでまいります。

---

## 2. 中期経営計画レビュー

---

宝酒造グループ

- 続きまして、宝酒造グループの中計の見通しをご説明します。

## 宝酒造グループ中期経営計画2016\_概要

### 基本方針

技術で差異化された商品の開発・育成により、国内事業の収益力を向上させるとともに、海外日本食材卸網を積極的に拡大し、海外事業を大きく伸長させる

### 定量目標

2017年3月期 宝酒造グループ  
売上高 2,000億円以上 営業利益 85億円以上 海外売上高比率 12%以上

### 事業戦略

#### 国内酒類 事業

“松竹梅白壁蔵「滯」スパークリング清酒”を中心に清酒の売上高を拡大する

当社独自の技術力・開発力および商品育成力を高め、差異化された商品の開発、ブランド育成によって収益力の向上を図る

#### 調味料 ・酒精事業

拡大が予想される中食市場に対し、機能性調味料の拡充によって調味料事業の成長を進める

酒精事業では原材料価格の変動に対して機動的に対応していく

#### 海外事業

日本食市場の広がりを背景に、海外和酒カテゴリーでのシェア拡大を加速させる

欧米をはじめとする世界での日本食材卸網構築に向け、積極的な投資を行う



## 「宝酒造グループ中期経営計画2016」

### <基本方針>

技術で差異化された、商品の開発・育成により、国内事業の収益力を向上させるとともに、海外日本食材卸網を積極的に拡大し、海外事業を大きく伸長させる

### <定量目標(2017年3月期 宝酒造グループ連結)>

売上高2,000億円以上

営業利益85億円以上

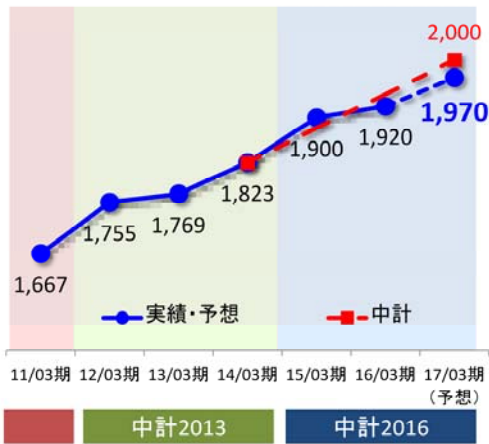
海外売上高比率12%以上

宝酒造グループ中期経営計画2016\_ 2017年3月期の見通し

◆売上高 (億円)

(億円)

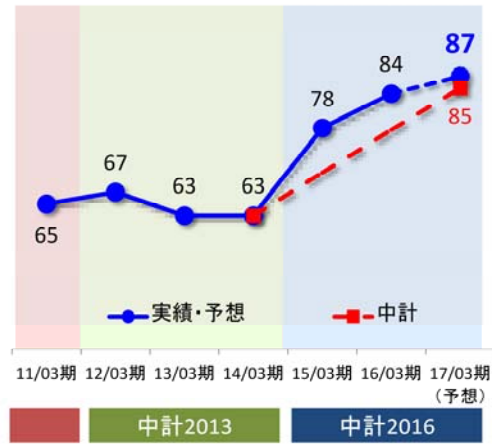
> 伸長も、中計目標 2,000億円達成は困難



◆営業利益 (億円)

(億円)

> 中計目標 85億円を今期達成



- 定量目標に対する今期(2017年3月期)の見通しについて見てまいります。

<売上高(左グラフ)>

- 今期予想を1,970億円としており、中計目標である、2,000億円には若干の未達となる計画です。
- 海外での日本食材卸事業などが順調に拡大する一方で、国内では主力である焼酎の減少に歯止めがかからず、またこれをカバーするべき他の商品・ブランドが、まだ十分に育っていないのが主な要因です。

<営業利益(右グラフ)>

- 今期予想を87億円としており、売上高は未達であっても、利益面では中計目標である85億円を達成する計画です。

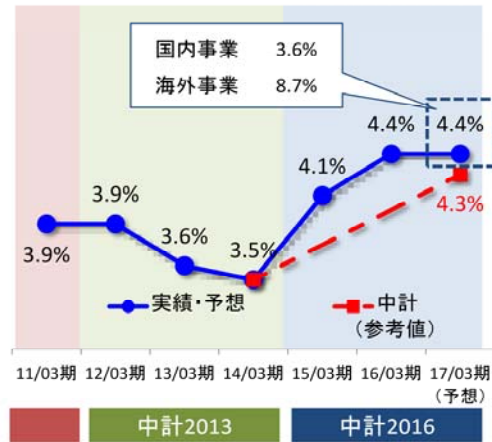
◆海外売上高比率

>初年度に中計目標値を達成し、さらに伸長



(参考)営業利益率

>改善傾向ながら4%前後で推移



<海外売上高比率(左グラフ)>

- 本中計初年度に中計目標である12%を上回り、今期は16.2%となる見通しです。

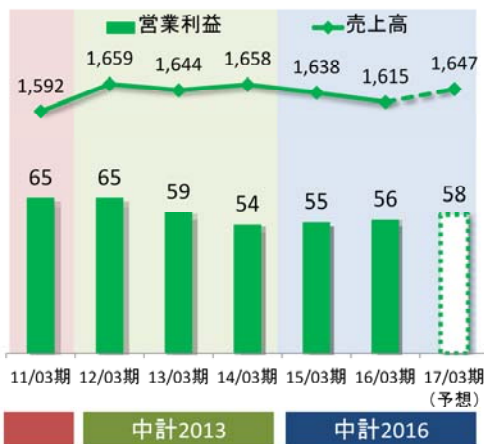
<営業利益率(右)>

- 今期の見通しは宝酒造グループ全体で4.4%、国内事業が3.6%、海外事業が8.7%となります。
- 国内事業の利益率を向上させることと、利益率が高い海外事業を大きく育てることで、グループ全体の利益率向上に引き続き取り組んでまいります。

## 宝酒造グループ中期経営計画2016\_2017年3月期の見通し

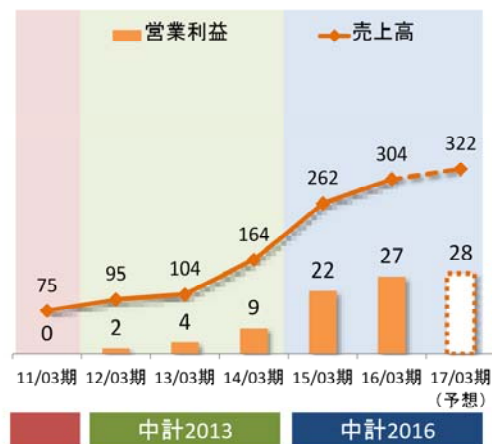
### ◆国内事業 (億円)

>売上高、営業利益とも横ばいが続く



### ◆海外事業 (億円)

>売上高、営業利益ともに大きく伸長



※国内事業の数値は、宝酒造グループ連結全体から海外事業(海外酒類・海外日本食材卸)を単純に差し引いて算出



28

- こちらのグラフは、宝酒造グループの売上高・営業利益を、国内事業と海外事業に分けて示したものです。
- 本中計の課題は基本方針にも掲げた、国内事業の収益力向上と海外事業の拡大です。
- 海外事業(右グラフ)の今期の売上高は322億円、営業利益は28億円と、前中計最終年度に比べ大きく伸びています。
- 海外での日本食市場の拡大や為替の円安が当社にとって追い風となっている面もありますが、やはり事業拡大に向けた施策を一つ一つ着実に実行してきたことが成果となって表れ始めています。
- その一方、国内事業(左グラフ)については、売上高・営業利益ともに前中計最終年度と変わらない水準で横ばいが続いています。
- 主力の焼酎の売上が減少するなか、スパークリング清酒「霽」をはじめとする清酒に注力するとともに、他のカテゴリーにも当社独自の技術で差別化された複数の強いブランドを育成することで、収益力の向上を図るとする戦略に取り組んではいますが、まだその成果を得るまでに至っていない状況です。

---

### 3. 2017年3月期の事業戦略

---

宝酒造グループ

- ここからは、2017年3月期の事業戦略についてご説明します。

## 2016年3月期の総括

(宝酒造グループ 2016年3月期 売上高実績)

(単位:百万円)	16/03期 実績	前期比		11月計画比	
		増減	うち 為替影響額	増減	うち 為替影響額
焼酎	59,376	▲ 4,207	+24	▲ 2,123	+1
清酒	24,736	▲ 183	+329	▲ 2,563	+16
ソフトアルコール飲料	27,815	+1,918	+2	▲ 384	+0
その他酒類	14,170	+678	+497	▲ 329	+27
本みりん	15,104	+534	+63	▲ 295	+3
その他調味料	9,314	+399	+46	+14	+2
原料用アルコール等	7,197	▲ 239	+1	▲ 102	+0
海外日本食材卸事業	20,668	+3,029	▲ 362	+368	+24
その他	13,641	+6	-	▲ 58	-
売上高	192,025	+1,936	+603	▲ 5,474	+75

## &lt;国内事業&gt;

- ◆焼酎の減少をカバーすべき戦略商品の計画未達

“松竹梅白壁蔵「澁」スパークリング清酒” “タカラ果汁入り糖質ゼロチューハイ「ゼロ仕立て」”

- ◆戦略商品、基幹商品を補完する商品戦略の不足

- ◆販売促進費比率の悪化

## &lt;海外事業&gt;

- ◆海外日本食材卸事業：現地の日本食市場拡大を追い風に増収となるも、為替影響により調達コストが上昇傾向

- ◆海外酒類事業：北米で清酒が順調に推移したほか、欧米でのウイスキー販売が好調



30

- まず、2016年3月期の総括として、宝酒造グループの品目別売上高を振り返ります。
- トータルでは、前期に対して増収となっていますが、海外日本食材卸事業の増収分を差し引くと減収となり、国内の減少分を海外で補ったという構図です。
- 国内事業を振り返ると、焼酎の減少をカバーすべき戦略商品、例えばスパークリング清酒「澁」や果汁入り糖質ゼロチューハイ「ゼロ仕立て」の計画未達が業績に影響したのは確かですが、そうした戦略商品や基幹商品を補完するような商品戦略が不足していたことが、本質的な問題であると考えています。
- 一方で海外事業については、海外日本食材卸事業、海外酒類事業ともに好調に推移しました。
- 為替影響により食材卸の調達コストが上昇傾向になっていることが懸念材料ではありますが、概ね順調に事業を展開できています。

(単位:百万円)	17/03期 通期予想	前期比	
		増減	うち 為替影響額
焼酎	56,300	▲ 3,076	▲ 4
清酒	26,800	+2,063	▲ 53
ソフトアルコール飲料	30,800	+2,984	▲ 0
その他酒類	14,400	+229	▲ 99
本みりん	16,400	+1,295	▲ 11
その他調味料	9,800	+485	▲ 7
原料用アルコール等	6,800	▲ 397	—
海外日本食材卸事業	22,300	+1,631	▲ 388
その他	13,400	▲ 241	—
売上高	197,000	+4,974	▲ 566



#### <国内事業>

- ◆焼酎をはじめとする複数カテゴリーへの新商品投入・育成による売上拡大
- ◆市場の変化にスピーディかつタイムリーに対応するための、新製品開発体制の強化
- ◆スパークリング清酒「霽」の育成加速、清酒カテゴリーでのブランド育成と新製品開発継続

#### <海外事業>

- ◆海外日本食材卸事業：既存市場における新規顧客の獲得と、新規エリアへの進出による売り上げ拡大
- ◆海外酒類事業：清酒を中心とした北米、中国等でのシェア拡大と、輸出戦略の強化



- 今期(2017年3月期)の計画についてご説明します。
- 今期も、海外日本食材卸事業は好調に推移すると見ていますが、為替換算レートの影響から、今までのような大きな増収は見込めません。
- 焼酎の減収を、清酒やソフトアルコール飲料、本みりんといったカテゴリーでカバーすることで、酒類事業全体で増収を目指します。
- 国内事業のポイントとして、焼酎をはじめとする複数カテゴリーへの新商品投入・育成により、売上拡大を図ります。
- そして、市場の変化にスピーディかつタイムリーに対応するために、新製品開発体制を強化します。もちろん、当社の基本方針である、技術で差異化された付加価値の高い商品づくりは継続しますが、それと同時に、そうした戦略商品を補完できるような仕組みを作ります。
- そして、スパークリング清酒「霽」の育成加速、清酒カテゴリーにおけるブランド育成と新製品開発には、引き続き取り組みます。
- 海外事業については、海外日本食材卸事業では既存市場における新規顧客の獲得とともに、欧州のみならずアジア・オセアニアを含めた新規エリアへの進出による売上拡大を図ります。
- また、海外酒類事業では、清酒を中心とした北米・中国などでのシェア拡大を目指すとともに、輸出戦略の強化に取り組みます。
- 全体方針については以上で、次頁からは本中計で掲げた2つの重点戦略の状況について詳しくご説明します。

## 重点戦略について① ～松竹梅白壁蔵「霽」スパークリング清酒～

### 「霽」の販売状況について

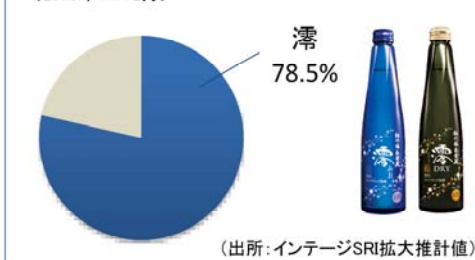
- ◆ 発売5年で年間100万ケース規模まで伸ばしましたが、前期の販売計画には未達。
- ◆ 消費者や流通サイドからの評価は依然として高く、スパークリング清酒市場でのシェアも高い。
- ◆ 業態別ではスーパーの販売構成が大きいですが、CVSや料飲店ルートに比べると伸びが弱く、さらに注力する必要がある

### <「霽」販売数量・金額推移>



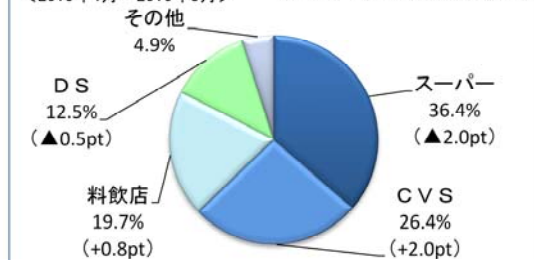
### <スパークリング清酒市場>

<2015年1～12月>



### <「霽」業態別売上構成>

<2015年4月～2016年3月> ※()内は前期構成比からの増減



32

### <スパークリング清酒「霽」について>

- 発売から5年となった当期は、年間100万ケース規模まで伸ばしました。
- 販売計画には未達となりましたが、消費者や流通サイドからの評価は依然として高く、スパークリング清酒市場でのシェアも高いことから、まだまだ売上げを拡大できると考えています。
- 業態別では、スーパーの販売構成がもっとも大きいのですが、CVSや料飲店ルートに比べると伸びが弱く、さらに注力する必要があります。

## 重点戦略について① ～松竹梅白壁蔵「濡」スパークリング清酒～

### 今期の取り組み

- ◆20～30代のコアターゲットに加え、40～60代女性を新たな戦略ターゲットとし、スーパー店頭でのプロモーションや、雑誌、イベントとのタイアップを実施
- ◆幅広い層に人気の高いタレントを起用し、ソーシャルメディアやスマートフォンアプリとも連動した積極的な情報発信を展開
- ◆社員も加わった「飲用実体験拡大運動」により、商品の認知率、飲用経験率の向上を図る

#### <ソーシャルメディア等を活用した情報発信>



Takara

#### <40～60代女性を意識した店頭プロモーション(例:母の日)>



#### <「飲用実体験拡大運動」の取り組み>



33

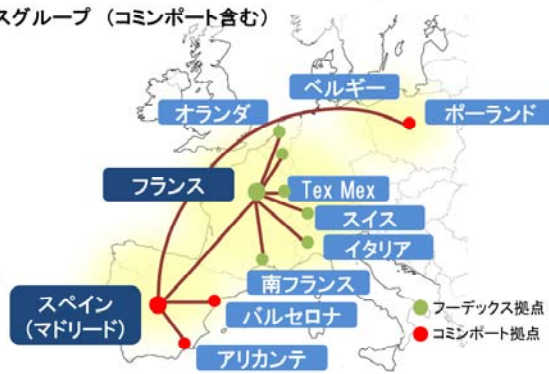
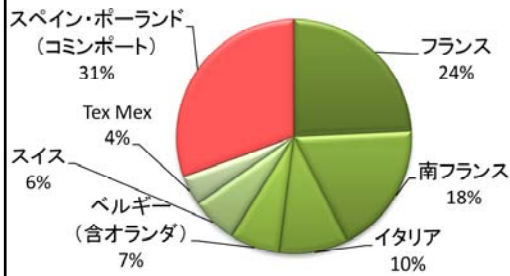
- 今期の取り組みとしましては、まず20代～30代のコアターゲットに加え、40代～60代女性を新たな戦略ターゲットとし、スーパー店頭でのプロモーションや雑誌・イベントとのタイアップを実施していきます。
- また、広告タレントには新たにNHKの朝ドラ等で人気の井上真央さん、玉木宏さんを起用します。若い方からご年配まで幅広い層から支持されるタレントを起用し、ソーシャルメディアやスマートフォンアプリとも連動した積極的な情報発信を展開します。
- そして、社員も加わった「飲用実体験拡大運動」により、商品の認知率、飲用経験率の向上を図ります。

## 重点戦略について② ～海外日本食材卸事業～

### 海外日本食材卸事業の概況①

フーデックスグループ (コミンポート含む)

フーデックスグループ 拠点別売上構成 (2015.1-12)



#### フーデックス

- ◆ 欧州最大規模の日本食材卸で、フランスを中心に欧州各地に拠点を拡大中。
- ◆ 主力のコメや調味料をはじめとした日本食材のほか、TexMex食材も扱い、主な売り先はチェーン料飲店をはじめとした日本食レストラン。
- ◆ 日本食レストランが増加し、競争が激化する中、市場のニーズに対応した品揃えを強化し、日本食市場での更なるシェア拡大を目指す。

#### コミンポート

- ◆ スペイン最大規模の日本食材卸でポーランドにも子会社を持つ。2014年、フーデックスグループに加わる。
- ◆ スペイン、ポルトガルの両国で日本食レストランや小売店に寿司ネタやコメをはじめとした日本食材や日本酒、調味料などを販売。



34

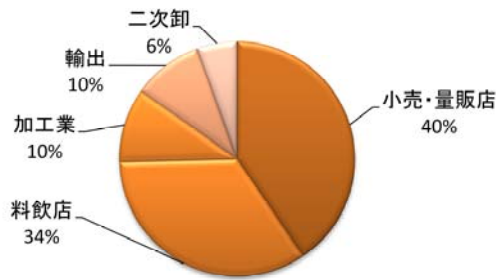
### <海外日本食材卸事業について>

- まず、フーデックスグループ (含コミンポート) についてご説明します。
- フーデックスグループは、フランスを中心に各地に拠点を展開しており、この地域的な広がりが強みです。
- マーケットとしてはフランスが最大で、コミンポートが展開するスペイン、ポーランドも大きな市場です。
- また、昨年ミラノ万博が開催されたイタリアでも売上が大きく伸びており、こうした市場で主たる売り先である日本食レストランのニーズに応え、シェアの拡大を図るとともに、欧州でまだ拠点を整備できていない新しいエリアにも展開していくことで、業績の拡大を目指します。

## 重点戦略について② ～海外日本食材卸事業～

### 海外日本食材卸事業の概況② タザキフーズ

タザキフーズ 業態別売上構成(2015.1-12)



- ◆ イギリス最大規模の日本食材卸で、日本をはじめ世界各地から日本食材を調達し、品揃えは2,000アイテム以上。
- ◆ 自社ブランド「Yutaka」の売上も高まり、イギリスのスーパーマーケットのみならず、欧州18か国以上に輸出。
- ◆ 主力のコメや米製品のほか、日本酒も多く取り扱い、日本食レストランをはじめ、国内チェーン量販店などの小売店にも販売。
- ◆ 流通量の拡大に対応すべく、社屋・倉庫の移転を予定。
- ◆ 日本食レストランが増加し、競争が激化する中、各チャネル向けの商品開発・売上げ拡大が課題。

- 次に、イギリスのタザキフーズについてご説明します。
- フードテックスとは異なり、ロンドンを中心にイギリス国内で展開するため、地理的な拡張ではなく様々な販売チャネルを売り先に持つのが特徴です。
- 2015年1-12月のデータでは小売・量販店の構成比が最も高く、以下、日本食レストランなどの料飲店や、スーパーの惣菜などを製造する加工食品メーカーと続きます。
- 「Yutaka」という自社ブランドを持つのがタザキフーズの一番の強みで、小売店などに販売するほか、他国にも輸出しています。
- イギリスでも日本食レストランが増加し、競争が激化していますが、流通量の拡大に対応すべく、社屋の移転を予定しており、さらなる売上拡大に取り組みます。

重点戦略について② ～海外日本食材卸事業～ (2017年3月期 通期業績予想)

海外日本食材卸事業の概況③

2016年3月期実績および2017年3月期業績予想

2016年3月期 実績		16/03期 売上高 実績	前期比		16/03期 営業利益 実績	前期比	
			増減	率(%)		増減	率(%)
フーデックス グループ	千ユーロ	113,473	+22,277	+24.4	12,009	+1,783	+17.4
	百万円	15,240	+2,441	+19.1	1,612	+177	+12.4
タザキフーズ	千ポンド	29,513	+1,484	+5.3	2,868	▲ 681	▲ 19.2
	百万円	5,465	+583	+12.0	531	▲ 87	▲ 14.1
海外日本食材卸計		20,668	+3,029	+17.2	2,144	+90	+4.4

2017年3月期 予想		17/03期 売上高 予想	前期比		17/03期 営業利益 予想	前期比	
			増減	率(%)		増減	率(%)
フーデックス グループ	千ユーロ	124,000	+10,526	+9.3	12,899	+889	+7.4
	百万円	16,368	+1,127	+7.4	1,702	+89	+5.6
タザキフーズ	千ポンド	32,000	+2,486	+8.4	2,465	▲ 403	▲ 14.1
	百万円	5,824	+358	+6.6	448	▲ 82	▲ 15.5
海外日本食材卸計		22,300	+1,631	+7.9	2,151	+7	+0.3

※表中の営業利益はのれん償却前



- フーデックスグループ、タザキフーズの業績の見通しについては、売上高は2社とも増収の計画ですが、タザキフーズについては前述の社屋移転のための一時的な費用が発生することから、減益となる予想です。

---

## 4. 2017年3月期の事業戦略

---

宝ヘルスケア

- 宝ヘルスケアの事業戦略についてご説明します。

## 2017年3月期の事業戦略 宝ヘルスケア

### 中計基本方針

ダイレクトマーケティングを通じて、健康食品事業の成長を加速させる

#### 通販事業の売上拡大

<通販目標売上高>

- ・「フコイダン」シリーズ 1,160百万円(前期比121%)
- ・「イソサミジン」シリーズ 205百万円(前期比148%)
- ・「明日葉」シリーズ 88百万円(前期比114%)

#### 積極的な広告宣伝の継続

- ◆エビデンスデータを重視した研究広告
- ◆宝ヘルスケア(株)設立10周年を活用した販促の実施

#### 研究開発の強化

- ◆機能性表示食品の届出・発売に向けたヒト試験実施
- ◆日本健康・栄養食品協会「フコイダン加工食品」専門部会への参画



フコイダンサプリ50



フコイダンドリンク200



ノコギリヤシ  
+イソサミジン



かぼちゃ種子  
+イソサミジン



明日葉青汁



38

- 今期も引き続き、フコイダン、イソサミジン、明日葉シリーズをはじめとした通販事業の売上拡大を目指し、積極的な広告宣伝を継続します。
- また、昨年4月よりスタートした機能性表示食品制度に対しては、ヒト試験を実施して有効性を検証するなど、研究開発面の強化にも取り組みます。

---

## 5. 企業価値向上に向けた取り組み

---

- 最後に、企業価値向上に向けた取り組みについてご説明します。

## 宝グループ長期経営ビジョン2020（2011年度～2020年度）

### 経営目標

国内外の強みを活かせる市場で事業を伸ばし、環境変化に強いバランスのとれた事業構造を確立する。



国内外において  
環境変化に強いバランスのとれた事業ポートフォリオへ



安定収益基盤と成長事業を有する独自の強固な事業ポートフォリオ



40

- 当社は、10年間の長期経営ビジョンである「宝グループ長期経営ビジョン2020」の達成を目指しています。

### 「宝グループ長期経営ビジョン2020」

国内外の強みを活かせる市場で事業を伸ばし、  
環境変化に強いバランスのとれた事業構造を確立する

- この長期経営ビジョン達成に向けたポイントは、以下の3点だと考えています。
  - 国内酒類事業で勝ち残っていくこと
  - 海外での日本食材卸ネットワークを拡大し、海外事業を大きく伸ばしていくこと、
  - バイオ事業における遺伝子治療・細胞医療の商業化
- これらを達成し、大きく飛躍することで、長期経営ビジョンの実現、ひいては企業価値の向上に繋がるものと考えています。

## 企業価値向上に向けた取り組み

### コーポレートガバナンスへの取り組み

- ◆2016年6月開催の定時株主総会にて、独立社外取締役1名を追加選任予定。
- ◆これに先立ち、「社外役員の独立性判断基準」を策定、2016年5月9日公表。
- ◆同じく2016年6月開催の定時株主総会にて、買収防衛策の更新を予定(一部スキームを変更)。
- ◆今後も、長期経営ビジョン達成のために、当社にとって最適なコーポレートガバナンス体制の構築を目指す。

### 事業推進と支援体制の強化(2015年4月～)

- ◆海外での事業拡大に対応するため、新規グループ会社を対象とした基盤整備チームを設置。
- ◆情報子会社を宝ホールディングスに合併し、情報システムを最大活用した業務サポート体制を構築。
- ◆宝酒造内にあったシェアードサービス部門を宝ホールディングスに移管し、グループシェアードの推進体制を強化。
- ◆事業推進の一層の強化を図るため、グループ全体の支援機能の強化と、責任体制の明確化を図る。



41

- 長期ビジョン実現のために、コーポレートガバナンスへの取り組みも進めています。
- 当社の「コーポレートガバナンス・ポリシー」にそって対応を進めており、本年の定時株主総会では、買収防衛策の更新も予定しています。
- 当社が目指す長期経営ビジョンを達成し、企業価値の向上と株主の皆様の共同の利益を確保し、これを向上させていくためには、買収防衛策の更新が必要であると考えました。
- 対抗策発動の際には必ず株主意思確認株主総会を開催するというスキームはそのままに、新たに独立社外役員3名から構成される独立委員会の設置を追加したスキームになっています。
- 今後も長期経営ビジョン達成のために、当社にとって最適なコーポレートガバナンス体制の構築を目指してまいります。
  
- また、事業推進と支援体制の強化に向けた取り組みを2015年4月から順次進めています。
- 海外でのパートナーシップ拡大を念頭に、新規グループ会社を対象とした基盤整備チームを社内に設置したほか、組織改編により宝ホールディングスに業務サポートやシェアード機能を集約しています。
- グループ全体の支援機能を強化し、責任体制を明確にすることで、事業推進の一層の強化と、企業価値向上に向けたグループ経営を進めていきたいと考えています。
  
- こうした取り組みが、来期から始まる次の中計、つまり長期ビジョン達成に向けた最後の中計の重要なテーマとなってきますので、その意味で、今期はその礎となる重要な1年とも言えます。
- 冒頭で申し上げた定量目標の達成とともに、環境変化に強いバランスのとれた事業構造への変革を成し遂げ、次の中計そして長期ビジョンに向かって飛躍してまいります。

【以上】

---

資料中の当社および当社グループの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

---

<お問合せ>  
宝ホールディングス株式会社 IR部  
Tel. 075-241-5124  
E-Mail [ir@takara.co.jp](mailto:ir@takara.co.jp)

---

## <参考資料>

---

- ◆宝ホールディングス連結\_包括利益計算書
- ◆2017年3月期 第2Q累計 業績予想
- ◆為替前提(子会社P/L換算レート)
- ◆粗留アルコール輸入(CIF)価格の推移

(単位:百万円)	15/03期 実績	16/03期 実績	増減
当期純利益	6,365	7,769	1,404
その他の包括利益合計	7,441	▲ 5,657	▲ 13,099
その他有価証券評価差額金	3,157	▲ 2,276	▲ 5,433
繰延ヘッジ損益	275	▲ 1,010	▲ 1,286
為替換算調整勘定	5,137	▲ 2,300	▲ 7,438
退職給付に係る調整額	▲ 1,482	▲ 74	1,408
持分法適用会社に対する持分相	352	4	▲ 348
包括利益	13,806	2,111	▲ 11,694
(内訳)			
親会社株主に係る包括利益	12,296	1,820	▲ 10,476
非支配株主に係る包括利益	1,509	291	▲ 1,218

## 2017年3月期 第2Q累計 業績予想

### 宝ホールディングス連結P/L概要

(単位:百万円)	17/03期 2Q累計予想	前期比	
		増減	率(%)
宝 酒 造 G	91,800	▲ 72	▲ 0.1
タカラバイオ G	14,109	851	6.4
宝ヘルスケア	1,000	44	4.6
そ の 他	990	142	16.8
売 上 高	107,900	965	0.9
売 上 原 価	65,400	97	0.1
売 上 総 利 益	42,500	867	2.1
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	38,700	948	2.5
宝 酒 造 G	2,800	▲ 118	▲ 4.1
タカラバイオ G	744	60	8.8
宝ヘルスケア	80	44	126.6
そ の 他	175	▲ 66	▲ 27.6
営 業 利 益	3,800	▲ 80	▲ 2.1
経 常 利 益	4,000	▲ 326	▲ 7.6
親会社株主に帰属する当期純利益	2,000	▲ 525	▲ 20.8

### 宝酒造グループ P/L概要

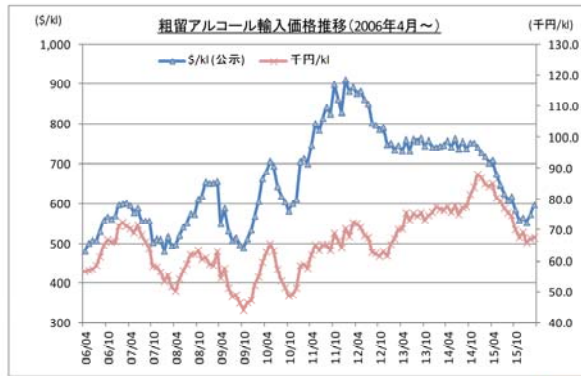
(単位:百万円)	17/03期 2Q累計予想	前期比	
		増減	率(%)
焼 酎	27,300	▲ 2,407	▲ 8.1
清 酒	10,100	282	2.9
ソフトアルコール飲料	15,400	1,153	8.1
そ の 他 酒 類	6,900	187	2.8
本 み り ん	7,300	226	3.2
そ の 他 調 味 料	4,500	141	3.2
原料用アルコール等	3,200	▲ 294	▲ 8.4
海外日本食材卸	10,900	1,103	11.3
そ の 他	6,200	▲ 465	▲ 7.0
売 上 高	91,800	▲ 72	▲ 0.1
売 上 原 価	58,200	▲ 341	▲ 0.6
売 上 総 利 益	33,600	269	0.8
運 送 費 、 保 管 料	3,800	88	2.4
広 告 宣 伝 費	1,200	▲ 257	▲ 17.7
販 売 促 進 費 等	15,900	313	2.0
研 究 開 発 費	200	41	26.2
管 理 費 、 そ の 他	9,700	202	2.1
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	30,800	387	1.3
営 業 利 益	2,800	▲ 118	▲ 4.1

## 為替前提(海外子会社P/L換算用レート)

(単位:円)	15/03期 (14年1月-12月)	16/03期 (15年1月-12月)				17/03期 (16年1月-12月)	
	実績	11月予想	実績	前期差		予想	前期差
				前期差	11月予想差		
ドル	105.79	120.40	<b>121.11</b>	+ 15.32	+ 0.71	<b>119.00</b>	▲ 2.11
ポンド	174.19	184.40	<b>185.20</b>	+ 11.01	+ 0.80	<b>182.00</b>	▲ 3.20
ユーロ	140.35	134.30	<b>134.31</b>	▲ 6.04	+ 0.01	<b>132.00</b>	▲ 2.31
元	17.18	19.10	<b>19.23</b>	+ 2.05	+ 0.13	<b>18.70</b>	▲ 0.53
100ウォン	10.05	10.60	<b>10.71</b>	+ 0.66	+ 0.11	<b>10.10</b>	▲ 0.61
インドルピー	1.74	1.89	<b>1.89</b>	+ 0.15	+ 0.00	<b>1.80</b>	▲ 0.09
スウェーデンクローナ	15.41	14.30	<b>14.36</b>	▲ 1.05	+ 0.06	<b>14.10</b>	▲ 0.26
シンガポールドル	—	87.70	<b>88.25</b>	-	+ 0.55	<b>85.00</b>	▲ 3.25

※シンガポールドルの実績は2015年4-12月平均レートで記載

## 粗留アルコール輸入(CIF)価格の推移



<データ出所> 財務省貿易統計

	15/03月期		16/03月期		前期差	
	千円/kl	\$/kl	千円/kl	\$/kl	千円/kl	\$/kl
4月	77.5	757.1	84.9	708.5	7.4	▲ 48.6
5月	75.8	741.9	80.4	672.7	4.6	▲ 69.2
6月	77.8	762.9	79.5	646.1	1.7	▲ 116.9
7月	74.9	736.6	76.9	625.0	2.0	▲ 111.5
8月	77.2	755.6	75.5	608.0	▲ 1.7	▲ 147.5
9月	77.4	737.5	74.7	617.7	▲ 2.7	▲ 119.9
10月	81.5	752.5	70.0	583.8	▲ 11.5	▲ 168.7
11月	83.8	752.3	67.7	557.6	▲ 16.2	▲ 194.6
12月	87.9	741.3	69.2	564.0	▲ 18.7	▲ 177.3
1月	86.8	727.7	65.9	551.0	▲ 20.9	▲ 176.6
2月	84.8	717.5	67.2	572.4	▲ 17.6	▲ 145.1
3月	84.0	701.2	67.5	596.5	▲ 16.6	▲ 104.7
年間平均	80.8	740.3	73.3	608.6	▲ 7.5	▲ 131.7